

「平和への願い」

古堅中学校 三年一組 東江 紗和子

今日も青い空、青い海の広がるのどかな村の読谷村。周りの人々も優しく、自然でいっぱいなの村が私は大好きです。しかし、六十五年前には、今から想像できないほどの悲惨で悲しい戦争が行なわれていました。

学校の授業で「沖縄戦について調べてみよう」ということになり、図書館へ行っているいろいろな本や資料を読む機会がありました。小

学生の頃から、毎年のように六月になると学校に地域の方を招いて戦争のお話をしていたいたり、写真を見たりしてきました。私はもちろん実際に戦争を体験したことはありません。でも、暗いガマの中ですごくしたお話や母親が自分の亡くなった子供を抱いている写真などを聞いたり見たりするたびに、私も実際に戦争を体験したような、心の中にモヤモヤとした暗く悲しい気持ちが残ります。

読谷村には有名なガマが二つあります。私

もその二つのガマに行つた事があります。

一つはシムクガマ。全長三キロもあり、とても奥ゆきのあるガマです。中には一千人もの人々が隠れていました。その中にはハワイからの帰国者が二人いて、アメリカ軍がガマに来たとき、騒ぐ避難者たちをなだめ説明して投降へと導びかれ、一千人前後の避難者の命が助かつています。

もう一つがチビチリガマ。シムクガマと対照的で奥ゆき五十メートルばかりのガマです。

中には約百四十人の人々が隠れていました。それで、シムクガマとの一番の違いが百四十名のうち八十三名が集団自決を行いました。それは、その中に中国からの帰国者がいてそこで戦争を体験しており、つかまつた人々の残酷な殺され方を見ていました。そこで、アメリカ兵につかまり、残酷な死に方をするより自分達で命をたとうとしたのがはじまりでした。その時のガマの中は、まさに地獄のありさまだったそうです。また、その集団自決

をした八十三名のうち約六割が十八歳以下の
子供たちだったそうです。

私は、同じ読谷にあるガマなのにも、こんな
にも違いがあるのにおどろきました。無関係
の子供たちがこんなにも坦々と自決する様子
を考えるだけで胸がおしつぶされそうになり
ます。とても、戦争の悲惨さやくるしみがズ
キズキと伝わってきました。

最近、高齢化によって、戦争を体験した方
々が少なくなってきたと知りました。こ
のまま時が流れて、戦争の事を語り継ぐ人が
いなくなつた時、また沖縄であの悲惨な戦争
が再びおこってしまうかもしれません。私は
今から大人になります。今の私達の世代が、
またその次の世代へとずつとずつと戦争は二
度とおこしてはならないと語り継がないとい
けない立場になります。とても、重大で大切
な役割だと私は思います。

自然がいっぱい、人の心が豊かな読谷村、
そこから自然も、人々の心の温かみや生きる

希望までうばいさ。た戦争。絶対にこのよう
な事をくり返してはなりません。

私は、たくさんのお亡くな。た方々のご冥福
と読谷村でのこれからの平和をず。と祈り続
けていこうと思います。今、こうや。て幸せ
に過ごせる事に感謝して、精一杯生きていき
たいです。